1.「初めて来たのは友達に連れられて」と今やこのトリップ空間を我がものとするようないでたちのおにぎり君・ヤーマン。そんな容姿から「他のどこよりも本木になれるところがいい(笑)」の言葉にも納得　2.仕事は防水業をしているSAM & DAVEヴァージンのトキさん。「年末だし、以前から来てみたいと思っていた」と語る彼は、グラサンをかけて少し緊張気味!?　3.ブラジリアンとジャパニーズのハーフ、レタナ吉田さん。「友達に教えてもらった」と滋賀から一人でやってきたそう。にしても、おひとりさまの受け入れ態勢も万全なSAM & DAVEの懐の広さなんだが?!　4.2週間に一度は通っているのは、「ナータとジャズ」と名乗る陽気な22歳と24歳。本日バースデイのナータは、この世に生れてきた喜びをこの店で味わいたいと言わんばかりに、カメラ前でポージング　5.コヨーテアグリー風にカウンターで踊り狂い、オヒネリを回収していたFreey(フリー・ワイ)さんは、土曜日になると現れるミステリアスなSAM & DAVEの常連人

「3年目は銘柄イベントや、木屋町のヨコつながりで何か仕掛けられたら」と、店長の高橋啓一郎さん。2年の下地づくりを経て、3年目は京都に宣戦布告!?

Watching Carefully

取材・文／インセクツ　撮影／畑中勝如

2nd Anniversary Party

@ SAM & DAVE KYOTO

ウェルカム！一見さん
変貌を遂げる京都スタンダード?!

昨年の師走も真っ只中、12月20日のサタデーナイトにSAM & DAVEでは、2nd Anniversary Partyが開かれていた。4日間続くこのパーティだが、もっとも集客を見込めるこの日は、SAM & DAVEの本来の姿を楽しんでもらおうという狙いか、通常営業というスタイルで迎えられた。ゲストに頼らず、店で働くスタッフを目当てに人が集まるという、まるで一晩で数百ドルのチップを手にする饒舌でエンターテイナーであるN.Y.のバーテンダーたちがいる店を思い起こさせる姿。交じりっけあり、純度0パーセント(もちろん、いい意味で)な京都では珍しいごった煮感こそ、この店がSAM & DAVEたる所以だろう。

そんな店に集まるのは、京都人だけでも、日本人だけでもない。噂を聞きつけ、はるばる滋賀や三重、はては名古屋からも客が訪れ、スタッフや客同士の出会いがしらの異文化親密(?)交流が繰り返される。「オープンから2年はとにかく下地づくり。街に出て、外国人を中心にカフェとかでいきなり声をかけ、店のことを知ってもらおうと宣伝しました」と語る店長の高橋さんの努力の甲斐あって、この4日間で訪れたのは、なんと延べ1694人(20日当日だけでも824人!)。この数字は間違いなく、今、京都でもっともワイルドでアグレッシブであるという証明。これはもはや「ヨソモノ」なんて言葉では、京都人も片づけられないかも?!